2009.4.22

牛久市長「裏工作で推薦出させ」

次期知事選

橋本知事「大変な侮辱だ」猛反論

「状況を調べもしないでそういうことを言っているのは非常にけしからん」――。橋本昌知事は21日の記者会見で、次期知事選にからみ、牛久市の池辺勝幸市長が「（橋本知事は）県北を中心に裏工作して推薦をいっぱい出させている」と発言したことに対し猛反論した。

橋本知事は「相手に確認もしないで、要するに新聞記者でいう『裏を取る』ということをしないで、そういうことを発言されることは（自分への支持を）表明された方々に対する大変な侮辱」と指摘。「皆さん方、真剣に考えてそういう行動を取られている。それをこちらが仕掛けているなどと言われたのでは、

ているのではないか」と述べた。

池辺市長は今月15日、知事選に出馬表明している元国土交通省事務次官、小幡政人氏の会合であいさつし、小幡氏支持を表明。その場で、「（橋本知事は）姑息な手段で、5期目の立候補の言い訳を作るというようなことはやめたほうがいい」と知事を批判していた。

「ソルガム」から新燃料

茨城大 23年度めどに研究

飼料用作物として栽培されている「ソルガム」の変種を原料に、ガソリンの代替燃料として注目されるバイオエタノールを作るプロジェクトが茨城大で進んでいる。阿見町など地域の耕作放棄地を利用して育て、平成23年度末をめどに、バイオ燃料社会の「茨城モデル」の構築を目指す。

バイオエタノールは、穀物などの糖分を発酵させてできるアルコール。バイオエタノールを混ぜたガソリンなどのバイオ燃料は、石油資源の使用抑制や環境対策につながるとして注目を集め、将来、急拡大が見込まれるバイオエタノール市場には、すでに多くの企業が参入している。

全国各地では、サトウキビなどを原料としたバイオエタノールの研究が進められているが、同大が着目したのは「スィートソルガム」という背丈の高い植物。生育期間はサトウキビが1年～1年半なのに対しわずか約4カ月で、「生産効率が非常に高く、エタノール収量も全く劣らない」（同大）。国内ほぼ全域で栽培が可能で、小規模な耕地にも育つという。

また、飼料用作物の変種のため農家に受け入れられやすく、耕作放棄地を利用することで、農作物を転作しすぎて穀物価格を上昇させる心配もないという。

同大は24日午後1時から、水戸市の県三の丸庁舎で、県、日立市、阿見町なども参加するワークショップを一般公開する。参加費無料。問い合わせは同大農学部の成沢才彦准教授☎029・888・8667。

茨城大がバイオエタノールの原料として注目しているスィートソルガム（茨城大提供）

霞ケ浦のコイ

養殖を再開へ

霞ケ浦で平成15年、コイヘルペス（ＫＨＶ）病で養殖コイが大量死した問題で、橋本昌知事は21日の記者会見で、早ければ23日にも、関係者に対し、コイ養殖の自粛解除を通知する意向を示した。農林水産省で22日に開かれるコイヘルペスウイルス病に関する技術検討会で、養殖再開を報告する予定。

橋本知事は「（検討会で）どういう問題が指摘されるかわからないが、大きな問題がなければ早ければ明後日（23日）にも、自粛要請の解除に係る通知を関係者あてに出していきたい」と述べた。

霞ケ浦は全国一の出荷量を誇る養殖コイの産地だったが、平成15年にＫＨＶ病で養殖コイ約1200㌧が大量死。さらに約2500㌧が処分された。県は16年3月から業者らに養殖自粛を要請していた。

かれんピンク色

博物館筑波実験植物園で「さくらそう展」が行われている＝写真（篠崎理撮影）。26日まで。

サクラソウは春先にピンク色の花を咲かせる多年草。近年、個体数が急速に減少している。

同展ではヨーロッパに自生するサクラソウとそれを用いた園芸品種を紹介。ヨーロッパと日本のサクラソウ園芸を比較することで違いと共通点、新たな品種の可能性について解説している。

訪れた人たちは、春の日差しに輝く薄いピンクや白の花びらに見入ったり、「紫牡丹」や「宿り木」「玉の冠」などの風雅な名前を楽しんだりしていた。

小学校改修訴訟

鹿嶋市争う姿勢

鹿嶋市が発注した小学校の改修工事をめぐり、元請け業者が倒産して代金を受領できなかったのは業者を選定した市に責任があるとして、下請け業者ら4社が鹿嶋市を相手取り、約5000万円の損害賠償を求めた訴訟の初公判が21日、水戸地裁（窪木稔裁判長）で開かれた。市側は「過失はなかった」とする答弁書を提出し、全面的に争う姿勢を示した。

訴状などによると、中里鋼業（小美玉市）ら4社は、沼崎工務店（鹿嶋市）から市立豊津小学校の改修

工事の一部を
沼崎工務店が
に倒産したた
が支払われな
ている。訴え
工務店は入札
設業者10社の
健全性の評価
た②複数の業
工事を行う共
Ｖ）による入
請けを保護す
た－などとし
があったと